

広報・教育部門

応募事例名

「伝わって納得」広報戦略方針の策定と対面型広報の実践

応募団体名)盛岡市上下水道局

親しみやすく、相手が理解する「伝わる広報」への挑戦

「伝える」から「伝わる」へ転換



参加者に選ばれたデザインマンホール



広報とは単なる情報発信ではなく、市民・地域との関係性を良くするための手段と考え、一方的に「伝える広報」から相手が理解する「伝わる広報」への転換を目指した広報戦略方針を策定しました。YouTubeやSNS等を利用した多様な情報発信を行うとともに、利用者参加型、対面型広報として下水道70周年記念事業と連携したイベントやマンホールデザインコンテスト等を実施しました。コンテストには多数の応募、イベントには多数のご来場をいただき、参加者の投票により記念デザインを決定し、下水道に愛着を持っていただくきっかけとなりました。

PRポイント

「伝わる広報」を目指して策定された広報戦略方針による利用者参加型、対面型広報の取組として、下水道70周年記念事業を実施しました。下水道に愛着を持ってもらいたいという思いが、取り組んだ企画の関連を生み、マンホールデザインコンテスト、コンテスト投票を含めたイベント及び表彰式を含めたセレモニーと一連の行事として相乗効果が発生し、多数の参加をいただくことに繋がりました。



上下水道局浄水課
主任 菊池 誠
(令和5年度広報担当)

広報戦略方針の策定に携わり、70周年事業ではホームページやSNS、動画発信を担当しました。マンホール関係のSNS発信は「いいね」の数がほかの投稿よりも多く、動画は、今も再生回数が伸び続けているので、取り組んだ成果が感じられて嬉しく思います。各行事も盛況となり感動しました！

管理者のひと言で始まった70周年事業でしたが、各担当が情報共有をしながら取り組んだ結果、相乗効果により想定よりも発展的な記念事業となりました。今後も下水道の大切さを利用者と共有するため、伝わる広報の実践を目指します。



上下水道局下水道整備課
課長補佐 畑山 大輔
(デザインコンテスト担当)